

m程手前から、深沢左俣の下降を開始する。ヤブこぎもなく、沢へ。しばらくは何もないが、両側の山とも伐採の跡がみられる。やがて10mくらいのナメ滝と4mの滝が出てくるが、簡単に下れる。

14:40二俣着。その下には2、3の滝があったが、特に問題もなく下降。15:10火打石沢出合到着。その後は林道を歩いて幕営地へ。 (記・加藤正和)

[タイム] 下降開始(13:40)→二俣(14:40)→火打石沢出合(15:10)

越ノ沢(下降), 1985年8月3日  
L.

台倉高山から引馬峠の方向に降り、平坦地になった所から越ノ沢めがけて下降を開始する。すぐにナメ床をもった沢に降り立つ。

1.5mの小滝を過ぎ、右から小沢を合わせながら水量はいくらかずつ増してゆく。それでもたいしたことはない。やがてその流れも伏流となってしまう、右岸からの沢と合流したあたりからまた水の流れが出てくる。さらに進むと、チョックストーンの滝があるが、滝はこれだけで、あとはなにもない。

やがて林道の跡に出て、右岸からの支沢を合わせる。沢床はそちらの方が低く、出合は荒れていて、広々としている。ここまで約1時間。

資料ではこの先林道の間までに滝があることになっていたが、沢は荒れていて、私達は滝を確認することはできなかった。 (記・)

[タイム] 台倉高山(10:40)→下降開始(10:55)→林道跡(11:50)→林道(12:15)→トヤス沢出合(13:30)

出ノ沢, 1985年8月4日  
L.

林道を30分程歩き、曲沢出合近くのヘアピンカーブより沢に降りる。このヤブこぎは思ったよりひどく、ツルの類とタケがからみあって、いやな感じである。

出合は1m程の小滝になっており、その先ずっと兩岸ともホールド・スタンスが

充分。それに特にへつるような所もない。出合の上  
部は、流木や倒木が目立ち、はや源頭部かと思わせ  
るが、やがてナメと5m程の滝が出てきて二俣とな  
る。

まず、右ルートをとる。30分程平凡なゴーロが  
続いた後、たてつづけにナメが現われ、大きな滝こ  
そかからないものの、まあまあ感じである。滝も  
特にむずかしいものはなく、ほとんどがシャワーし  
ながら直登できる。

9:45ここまで左へ左へとルートをとってきたが、  
ここにきて本流と思われる左沢は水がほとんどな  
くなってしまふ。ちょっと偵察ということで、水量の  
多い右沢に入ってみるが、6m程の滝を越すと先は  
倒木がひどく、遡行に難儀をきたし、そこそこにし  
て戻り、左沢に入る。

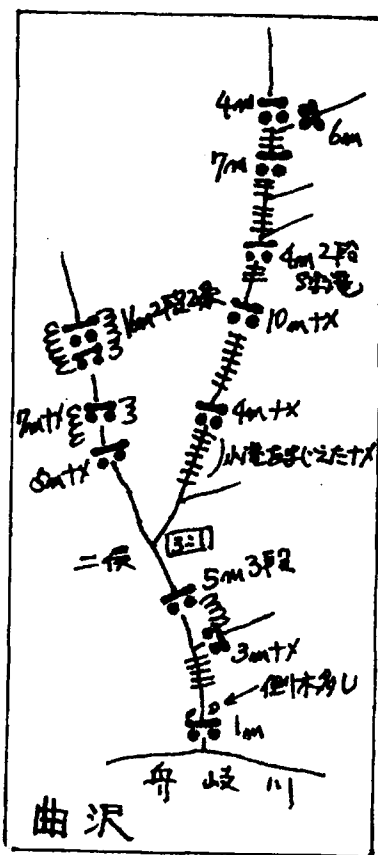
5分も行くと完全に水は濁れ、予定の地点よりか  
なり手前であったが、下降予定の左俣に入るべく山  
腹のトラバースを開始する。ところが、右俣に流れ  
込む支流に入り込んでしまい、そのまま右俣を下降、二俣へと戻る。

二俣から13:00までという時間制限で、左俣の偵察に出る。12:07、左俣最大の滝、  
16m 2段2条の滝に到着。真中を直登できるのだが、下降は懸垂になるし、支点を  
とるのに時間がかかりそうなので、いろいろとルートファインディングを話しあう  
だけにして下降。

林道までのヤブこぎだが、下降したルートと別のルートをとってみたものの、こ  
れがまたひどく、さんざんであった。

(記)

[タイム] 出合(7:25)→二俣(7:55)→遡行終了(10:00)→二俣(11:35)→左俣最高到  
達点(12:05, 12:30)→出合(14:00)



上ゲンバ沢(仮称) 1985年8月4日

I

幕営地からかつての林道を15分程歩いて、上ゲンバ沢(仮称)出合へ。かつての林  
道といっても、もう使われなくなって久しく、トヤス沢出合より上流部分しばらく  
の間は完全に流失してしまっている。その先は、歩くには支障がないものの、雑草